

FRONTIER INTERNATIONAL GROUP

2026年4月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社フロンティアインターナショナル

東証グロース [7050]

エグゼクティブサマリー

- 1 2026年4月期第1四半期業績は、主力事業であるイベント領域において受注が堅調だったことに加え、大阪・関西万博案件の一部も売上計上となったこと、ガイアコミュニケーションズ、シネブリッジ、マックスプロデュースといった連結子会社も全ての会社で黒字化を達成したことなどから、前年同期比44.2%増収、営業利益179.5%増益となりました。
- 2 従業員数の増加を受けて、2026年4月期第1四半期において退職給付に係る会計処理方法を簡便法から原則法に変更した結果、販管費で退職給付費用が前年同期比67百万増加することとなりました。なお、当該会計処理は、第一四半期固有の処理であることから、2026年4月期業績見通しは、期初会社計画から変更ありません。
- 3 2025年8月28日開催の取締役会において、NPU株式会社の株式を取得し、子会社化することについて決議しました。今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示します。



CONTENTS

01 | 2026年4月期第1四半期業績

02 | 2026年4月期通期業績予想

03 | APPENDIX

01

2026年4月期第1四半期業績

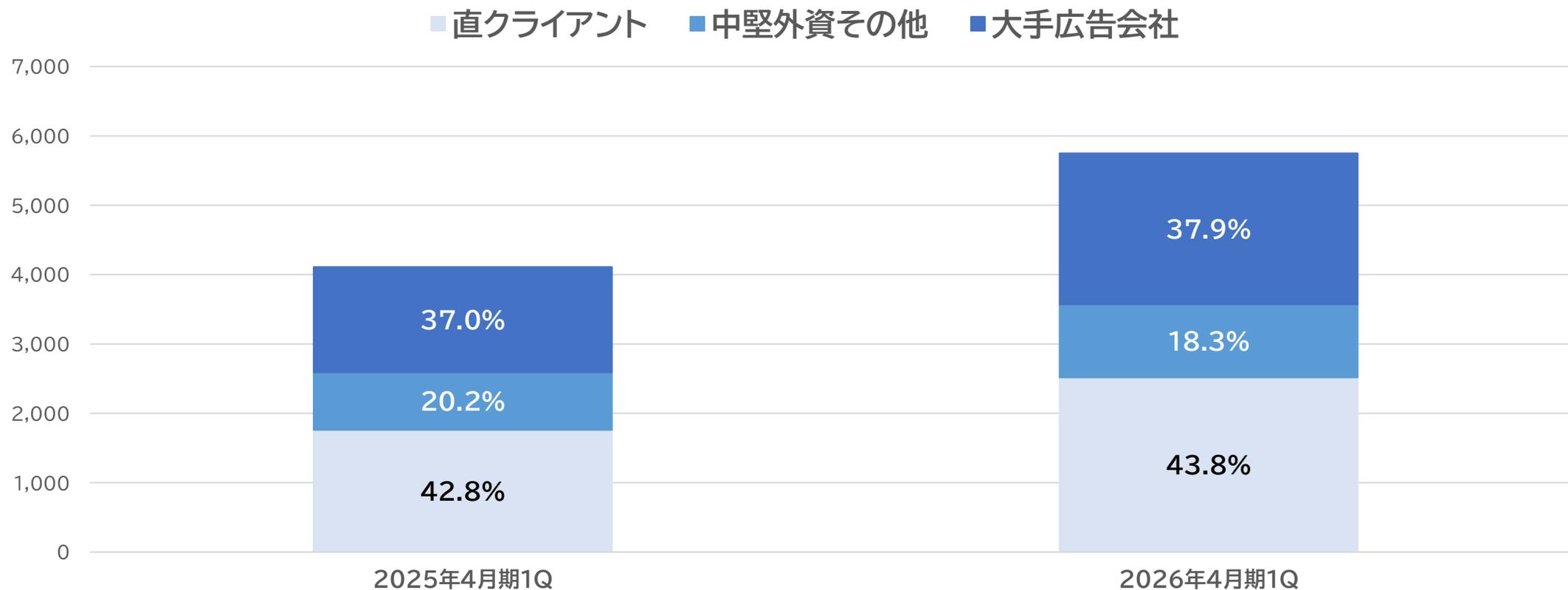
2026年4月期 第1四半期(5月から7月)業績

- 大阪・関西万博や、その他の販促イベントの回復、及び前期に連結子会社化したシネブリッジ、マックスプロデュースが、今期より初めて通期で連結業績を構成することとなり、売上高は前年同期比+44.2%と大幅伸長した。
- 上記売上高の増大、及びガイアコミュニケーションズ、シネブリッジ、マックスプロデュースといった連結子会社が全て黒字決算で着地したことから、営業利益は前年同期比+179.5%とさらに大幅伸長した。

(百万円)	実績		前年同期比
	2025年4月期	2026年4月期	
	5月-7月	5月-7月	
売上高	3,949	5,692	44.2%
売上総利益 (利益率)	685 17.3%	1,055 18.5%	53.9%
販管費	600	815	36.0%
営業利益 (利益率)	85 2.2%	239 4.2%	179.5%
経常利益 (利益率)	85 2.2%	240 4.2%	180.6%
当期純利益	44	143	220.2%

受注先別売上占有率(連結)

- 大手広告会社については、事業基盤と位置づけ取引拡大に注力しており、大手3大代理店を中心に取引が順調に拡大。
- 直クライアントについては、連結子会社3社(ガイアコミュニケーションズ、シネブリッジ、マックスプロデュース)を中心に顧客開発が進展。



案件業種別売上占有率(業界別)

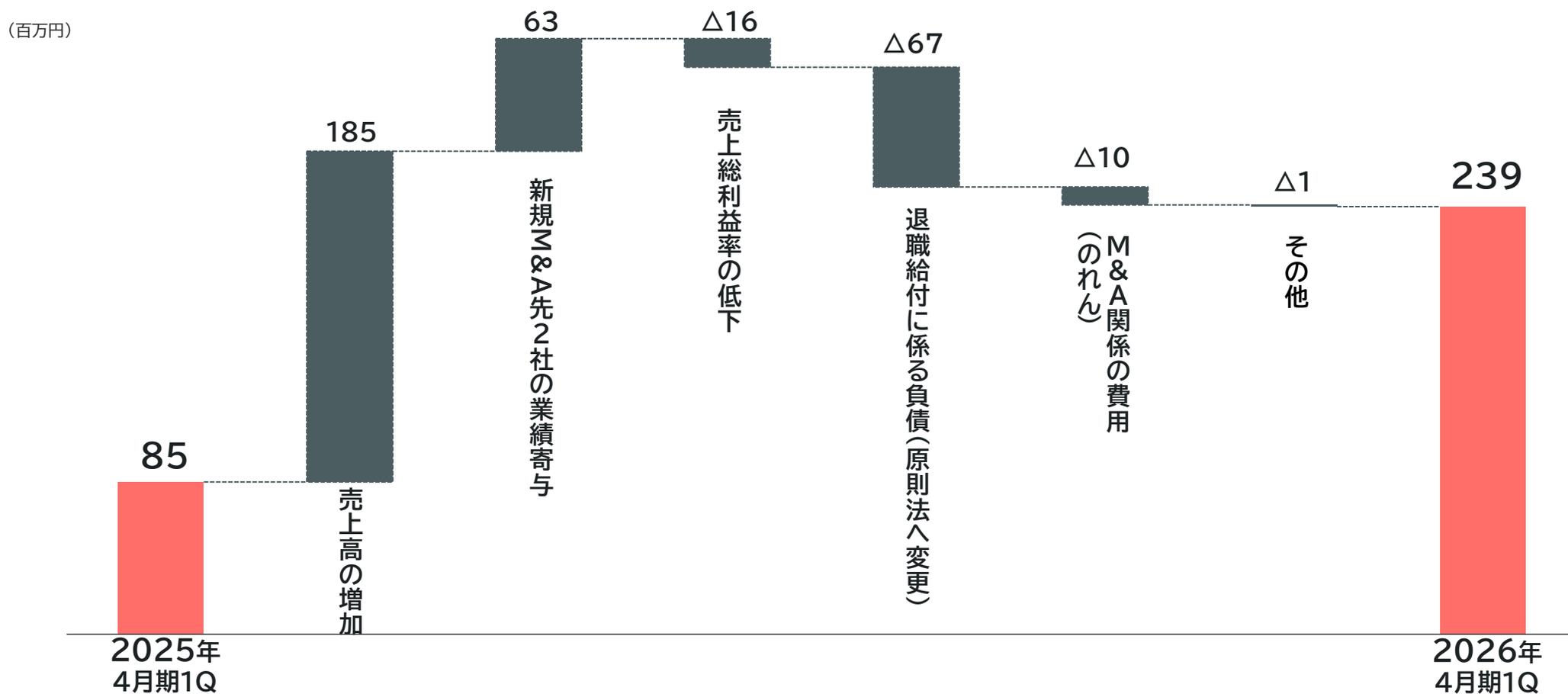
- 販促イベントが全般的に回復、特に、著名インフルエンサーが主催する大規模ポップアップイベント等の実施で嗜好品・化粧品領域が増加、大阪・関西万博関連でその他団体などが増収となる一方、前期固有の大型案件があった情報・通信などが減収。

(百万円)	2025.4期1Q		2026.4期1Q		増減額	増減率
食品	613	18.2%	712	16.1%	99	16.1%
その他団体	311	9.2%	613	13.8%	302	96.8%
嗜好品・化粧品	184	5.4%	515	11.6%	332	180.5%
情報・通信	594	17.6%	455	10.3%	△139	△23.4%
ゲーム	466	13.8%	416	9.4%	△50	△10.7%
小売・家電	300	8.9%	338	7.6%	38	12.8%
自動車・関連品	63	1.9%	310	7.0%	247	392.0%
不動産・住宅設備	114	3.4%	305	6.9%	191	168.5%
その他	117	3.5%	227	5.1%	110	94.6%
交通・レジャー	188	5.6%	174	3.9%	△15	△7.7%
官公庁・団体	205	6.1%	169	3.8%	△37	△17.9%
薬品・医療用品	35	1.0%	99	2.2%	64	182.7%
金融・保険	143	4.3%	71	1.6%	△72	△50.4%
スポーツ・ファッション	38	1.1%	22	0.5%	△16	△41.9%
総計	3,371	100.0%	4,426	100.0%	1,054	31.3%

※新規連結子会社を除く、既存3社(フロンティアインターナショナル、フロンティアダイレクト、イリアル)で集計

営業利益の増減分析

- 退職給付に係る会計処理方法を簡便法から原則法に変更した結果、販管費で退職給付費用が前年同期比67百万増加するという当四半期固有の利益押し下げ要素があったものの、売上高の大幅回復や今期より初めて通期で連結業績を構成することとなったシネブリッジ、マックスプロデュースといった子会社の業績寄与が大きく、営業利益は前年同期比179.5%の増益となった。



連結貸借対照表

(百万円)	2025.4期	2026.4期 7月末	前期末比
流動資産	11,861	10,981	△880
現預金	7,499	6,596	△902
固定資産	2,620	2,588	△31
負債	5,453	4,808	△644
純資産	9,028	8,761	△267
自己資本比率	61.4%	63.5%	2.1%
総資産	14,482	13,569	△912

- 流動資産は現預金9.0億円、営業債権3.6億円減少し109.8億円。
- 固定資産は長期未収入金が0.9億円減少し、25.8億円。
- 負債は営業債務1.3億円、未払法人税が3.2億円減少し、48.0億円。
- 総資産は前期末比9.1億円減少し、135.6億円。
- 自己資本比率は前期比2.1%増。

事例紹介

■ モンスターストライク2025 DREAMDAZE III



■ 乾麺グランプリ2025



■ ローソン 50周年発表会



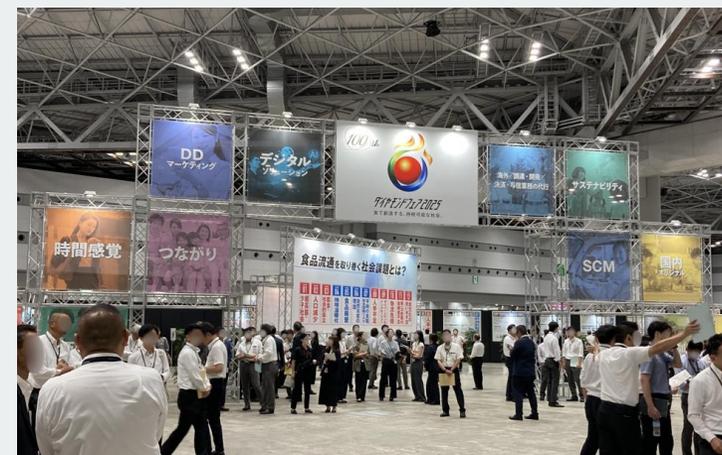
■ グラングリーン大阪 MIDORI FES. 2025



■ 令和7年度都立工科高校PR



■ 三菱食品ダイヤモンドフェア2025



02

2026年4月期通期業績予想

2026年4月期通期業績見通し

- 2026年4月期の通期業績見通しについては今のところは維持するものの、新たに子会社化したNPU株式会社が当社グループの業績に与える影響を慎重に分析し、今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示します。

(百万円)	2025年4月期	2026年4月期	増減率
	通期実績	業績予想	
売上高	20,335	23,000	13.1%
売上総利益	3,893	4,485	15.2%
(利益率)	19.1%	19.5%	
販管費	2,616	2,935	12.2%
営業利益	1,277	1,550	21.3%
(利益率)	6.3%	6.7%	
経常利益	1,267	1,574	24.2%
(利益率)	6.2%	6.8%	
当期純利益	876	1,007	14.9%

受注・引合い残高

- 第2四半期以降も受注・引合い状況は活発に推移しており、2025年7月末現在の受注・引合い残高(受注+High+Midの合計)は前期比21.5%増と大幅に伸長。

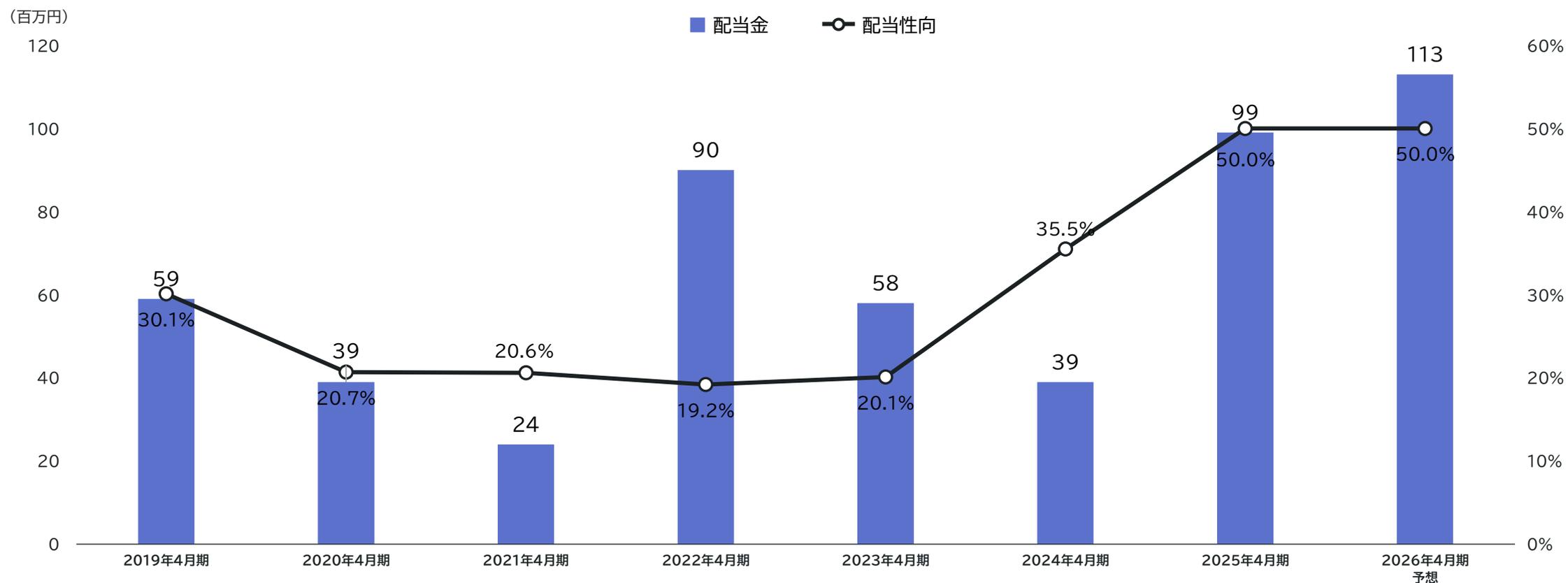
	2025年4月期1Q (2024/7/31現在)	2026年4月期1Q (2025/7/31現在)	差異
売上高(百万円)			
受注残高 (受注+High+Midの合計)	8,834	10,731	1,898
Lowの合計	4,675	2,641	△2,033

※ガイアコミュニケーションズ、シネブリッジ、マックスプロデュースは含まず

- 受注:金額、実施時期が決定している案件
- High:金額・実施時期に不確定要素のある案件(80%以上の確度)
- Mid:企画・提案案件のうち、受注する確度の高い案件(50%以上の確度)
- Low:企画・提案中の案件

配当予想

- 当社グループは、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、経営成績及び財務状況、中長期的な事業拡大に必要な内部留保など、その見通しに応じた適切な利益還元策を柔軟に検討し、実施することを基本方針としている。
- 資本効率のさらなる向上を達成するため、配当方針は「大型M&Aが発生しない場合には配当性向(連結)50.0%程度を目安」。



03

APPENDIX

- Purpose、会社概要・沿革

—— 私たちの未来

OUR FUTURE

心の豊かさを分かち合える
生きる喜びに満ちた世界の実現。

私たちが創る体験によって、世界を喜びと感動で満たし、
幸福の総量が増えていくことが私たちの願いです。
閉塞感がある現代において、物質的・機能的な充足だけではなく、
精神的な充足や心が豊かであること、そして人生を前向きに進めていく生きることの
喜びに溢れることが重要だと考えています。

—— 私たちの使命

OUR MISSION

未体験を開拓し、
すべての人の経験にする。

私たちが目指すものは、人の生きがいを創造し、人生を意義あるものとし、
すべての人の人生に貢献していくことです。そのために私たちがすべきことは、
自分自身・顧客・世の中に未知の体験を創り続けることにより、
人の心を動かし、それを人の経験にし、人々の価値観を変え、行動を変え、
やがて社会がより良い方向に大きく変えていくことです。

会社概要・沿革

社名	株式会社フロンティアインターナショナル
事業内容	エクスペリエンスソリューション事業 ヒューマンソリューション事業 デジタル・テクノロジーソリューション事業
代表取締役	河村 康宏
設立	1990年6月
資本金	429,766千円(資本準備金含む)
所在地	東京都渋谷区渋谷3-3-5 NBF 渋谷イースト
主要拠点(国内)	札幌、仙台、東京、千葉 名古屋、大阪、広島、小倉、福岡
正社員数(連結)	464人(2025年4月末現在)
人材登録(連結)	約42,000名
グループ会社	株式会社フロンティアダイレクト 株式会社イリアル 株式会社トリニティ 株式会社ガイアコミュニケーションズ 株式会社シネブリッジ 株式会社マックスプロデュース 株式会社ヴァンクラフト

1990

創業

2001

2005

2008

2009

2010

2013

2018

2019

6月
イベントキャンペーンの企画、制作、
運営を目的として東京都港区六本木
に当社設立

7月
現在地(東京都渋谷区渋谷)に、
本社移転

11月
名古屋オフィスを新設

2月
大阪オフィスを新設

5月
福岡オフィスを新設

8月
中国に划労通文化艺术咨询(上海)
有限公司を設立

4月
店頭販売支援事業に特化した
セルコム株式会社を設立

5月
インドネシアにPT.FRONTIER
INTERNATIONAL INDONESIAを設立

2月
札幌オフィスを新設

5月
株式会社フロンティアインターナショナルの
店頭販売支援事業を2018年5月1日付け
で分社化し新会社「株式会社フロンティアダ
イレクト」を設立

2月
東証マザーズ 上場

2021

6月
仙台、千葉、金沢、広島、小倉、熊本、静岡に
サテライトオフィスを出店

9月
株式会社ワールドパークへ出資

11月
体験創造研究所を設立

2022

2月
ANOBKA3号有限責任事業組合へ出資

4月
名古屋オフィスを愛知県名古屋市中村区に移転

4月
東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京
証券取引所マザーズからグロース市場に移行

9月
株式会社トリニティ設立

2023

5月
株式会社イリアル設立

12月
株式会社シックスティーパーセントへ出資

2024

1月
株式会社ガイアコミュニケーションズ 子会社化

2月
YADOKARI株式会社へ出資

8月
株式会社GROWTH VERSEへ出資

9月
株式会社シネブリッジ 子会社化
フォッグ株式会社へ出資
株式会社マックスプロデュース 子会社化

2025

4月
株式会社ヴァンクラフト 子会社化
株式会社KT Partnersへ関連会社化

9月
NPU株式会社 子会社化



FRONTIER
INTERNATIONAL GROUP

お問い合わせ先



info@frontier-i.co.jp

● 本資料に関する注意事項

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予想とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業展開する業界の動向等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。